

## 廊下の掲示板を上手に活用する

一徹国語人

秋田市の南に岩城いわきという小さな町がある。  
 役場は、JR羽越本線つばさの日本海に面した「岩城みなと」という駅の近くにあるのだが、町民の多くは少し内陸に入った亀田かめだという旧城下に住んでいるらしい。

この亀田城下には、昔ながらの家がたくさん残っている。天守閣や城門をはじめいくつかの武家屋敷などを移築復元もしていて、今なお、静かな城下町の風情を漂わせている。

その復元建築群のすぐ近くに、亀田小学校がある。中学校かと思わせるほど広い運動場と、城内の武道館を思わせる大きな体育館がある。校舎の前には、老松と石碑・恩師の銅像などが庭園のごとく鎮まっていた。

わたしが訪れたのは月曜日の朝八時であったが、すでに全校児童が教室に入っていて、自由学習を始めていた。どの教室もしいんと静まりかえっている。

今日から一週間、だれでもが参観できるというので、

- ・五年生は、体験学習で作った秋田県の特産品である、きりたんぼ鍋なべを指導してくれた地域の方々への礼状
- ・六年生は、社会科の歴史新聞（個人制作）

ちなみに、亀田小学校はどの学年も単級なので、掲示物は上下学年との比較がすぐできる。五年生のところではわたしは釘くわつけになった。

十七名の作品が、児童の目の高さを配慮してか、低いところに掲示されていた。十七作品中、改行とひとまず落としが確実にできているものが九つもある。全体として、実によく書けている。例えば、ここでは、日ごころ家で食べるきりたんぼ鍋と体験学習で作った鍋の味の違いや、原料、製法（汁づくりや加熱法など）の違いなどを挙げている。また、ボランティア指導者の説明のしかたの分かりやすさに言及している作品もある。書かれてある内容は、五年生とは思えぬほどの細やかさで、ただ単純に礼を述べているような作品は一つもない。しかも、どの子の字も実にしっかりと書いて丁寧ていねいに書かれている。毎日の朝自習の成果が出ていることがはっきり分かる。

この掲示板は、自分の作品と友達の作品との違いを比べながら学び取ることもできるが、今こので、隣の教室前に貼られているものもしっかり見ておけば、来年の同じ時期には、自分の書きぶりを生かしながら、見るもの

校舎に上がらせてもらった。ひと教室ずつのぞき込んでみると、二十人を少し超えたくらいの子が、算数や漢字ドリルをしていたり、社会科見学をしたことをグループで新聞にまとめたりしていた。校長先生の説明によると、この朝の自由学習は毎日八時から三十分間あるとのことであった。

どの学年でも、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」を、いろいろな教科の時間を活用して具体的に進めていくことに力を入れているとのこと。廊下の掲示板にその成果としての作品が整然と掲示されていた。

- ・個別支援級では算数の計算カード
- ・一年生は、「みんなであのしくあいつえあ」のうたづくり
- ・二年生は漢字練習カード
- ・三年生は硬筆書写
- ・四年生は、秋田県警察の交通司令室の見学記録新聞（写真入り）

聞くもの、話すもの、書くものなどの構成を工夫してよりよい作品を書きあげることができると、児童たちは知っているようだ。

八時半になって、教室から出てきた四年生の何人かが近くに寄ってきて、わたしと同じように作品を見比べては小さな声で話し合っていた。また、五年生の教室の前に行くと、作品を指しながら話し合っている児童たちもいた。

この掲示のしかたに感心するところは、カリキュラムに添った学びの整理法（作品化法）が児童の心情や能力に合致しているつえに具体的であり、教師の添え書き（学習内容の解説）が生きていることだ。

朝のしっかりとした自由学習の延長上に、一人一人が学習を自分のものに行っている喜びのようなものにじみ出していた。

一徹国語人にご意見・ご質問がある方は、広報部までお便りをお寄せください。一徹国語人がお返事をいたします。お便りは、誌上にて紹介させていただきます場合がありますので、あらかじめご了承ください。

FAX 03-3493-5483

E mail : koho@mitsumura-tosho.co.jp